

# 主体的・対話的で深い学びを求める社会科教育

## A Social Studies Education that Demands Proactive, Interactive, and Deep Learning

松尾 和宣\*

Kazuyoshi MATSUO

### 抄 録

平成32年度(2020年度)から本格実施される次期小学校学習指導要領では、社会科の目標を、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次の通り育成することを目指す。」と定めている。

一方、現行の小学校学習指導要領社会科の目標は「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」である。

現行と次期小学校学習指導要領の目標を比較してみると、教育を取り巻く状況の厳しさや、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に向かう意思が読み取れる。

本稿では、社会科学習の中での、「主体的・対話的で深い学び」の学習を実践例と共に指導者の果たすべき役割について述べてみたい。

### I. はじめに

次期学習指導要領では、先に示した社会科の目標で育成する資質・能力を学力の三要素に基づく三観点として次のように定めている。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
-

＊神戸市立板宿小学校校長

(2) 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

(3) 社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会を担う国民としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

(1) は、「知識・技能」

(2) は、「思考・判断・表現」

(3) は、「主体的に学習に取り組む態度」である。

知識基盤社会の進展，急速なグローバル化が進む中，世界に類を見ない人口減少社会の到来，第4次産業革命とも言われる進化した人工知能が様々な判断を行ったり，身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする未来予測がある。そのような予測困難な時代に，子供たち自らが将来を切り拓いていく資質・能力を育てる必要性を感じる小学校社会科の目標である。

加えて，「主体的・対話的で深い学び」は，学校教育において，質の高い学びを実現し，学習内容を深く理解し，資質・能力を身に付け，生涯にわたってアクティブに学び続けるようにすることである。

これら，「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点は，子供の学びの過程として重要な点を異なる側面から捉えたものであり，授業改善の視点としては，それぞれ固有の視点であることに留意が必要である。単元や題材のまとまりの中で，子供たちの学びがこれら三つの視点を満たすものになっているか，それぞれの視点の内容と相互のバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことが求められる。

## Ⅱ. 「主体的・対話的で深い学び」へのアプローチ

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を次のよう意味づけでとらえたい。

「主体的な学び」：学ぶことに興味や関心をもち，見通しをもって粘り強く取り組み，自らの学習活動を振り返って次につなげるような学習。

「対話的な学び」：子供同士の協働，教員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに

考える等により、自らの考えを広げ、深めるようにしていくような学習。

「深い学び」：「見方・考え方」を働かせて、自己の考えを形成し表したり、構想、創造したりすることに向かう「深い学び」を実現する。

習得や活用において、資質の能力の三つの柱の示す力（「知識・技能」「思考力・判断力」「学びに向かう力・人間性等」）が総合的に活用、発揮されるようにする。

次に、「主体的・対話的で深い学び」に対するアプローチとしての教材の発掘、単元構成の見直し、1 単位時間の流れ等について考察を加えていきたい。

### 1 教材の発掘

生活と地域に根ざし、具体的な事実をふまえた社会科の学習を通して、社会についての確かなものの見方や考え方を育てる。子供たちの身近な素材を教材とすることが、五感を使い、体当たりの学習が可能であり、子供たちの追及意識を高め、ひいては、社会に対する正しい見方や考え方を、さらには、人間の生き方に気付く子供が育つと考えられる。

### 2 単元構成の見直し

子供が主体的に学ぶ教材内容を考えるために。単元構成の見直しを図る必要がある。子供たちの課題意識をもたせ、教師がねらう学習の目標や学習内容に照らし合わせながら学習計画を立てていくことが肝要だと考える。

子供たちは、自分たちが出した課題が、学習内容に反映され、位置付けられることで、より主体的に学習すると考える。

さらに、教材化にあたり、子供たちを働く人や民衆・一般市民の立場に立たせる視点も重要である。「人」を焦点化して取り上げることで、人間の生き方や願いを自分の問題として考えられるように教材を仕組むことも、深い学びへのアプローチの一つである。そうすることによって、働く人や民衆・一般市民に共感をもって考えることができる子供に育つと考えられる。

### 3 1 単位時間の流れ

社会科の学習では、何を学習させるのかということと同時に、いかに学習させるのかということが重要である。子供たちが、主体的・対話的に取り組む学習活動の工夫が必要となる。

子供自らが課題を求め、主体的に学習することは、子供の旺盛な意欲をもって積極的に教材に働きかけ、教師の指導や支援を受けつつ、自らの手で学習課題を追求し、その解決を図る学習である。したがって、その学習の過程における子供の意識の流れは、問題解決の追求過程であり、発展的に連続するものである。

そのため、1 単位時間の流れをより緻密にする必要がある。「主体的・対話的で深い学び」を創るうえで、子供の学習過程を次のように仮定する。

とらえる →	たてる →	調べる →	まとめる →	ひろげる →
興味・関心をもち、課題をつかむ。	課題に対して予想し、解決の手順を考え、第一次の考えをもつ。	多様な学習活動を通して、課題の追求と検証をおこなう。	課題を解決し、第二次の考えをもつ。	生活に広げ、学習を深めようとする。新たにより深い課題をとらえる。

### Ⅲ. 実践例～4年生「住みよいくらし～ごみのしまつと活用～」の学習を通して～

#### 1. 単元の構成

「主体的・対話的で深い学び」を求め、子供たちの生活と直結し、「人」に焦点をあてた学習として、4年生「住みよいくらし～ごみのしまつと活用～」を実践例として取り上げる。

この学習を通して、子供たちが正しい勤労観・職業観をもつことができる内容を創りだしたいと考えた。そのため、単元の構成を次のように組み替える。

【単元のしくみ】

家から出るごみは、どのように処理されるのか

家から出るごみ調べ

- ・ごみの量と素材
- ・増え続けるごみの量
- ・昔のごみの処理

- ・「くさい」「きたない」
- ・「増えるごみ」 ➡ 生活の変化
- ・プラスチック製品・トレー類

個人では、どうにも処理できない

どこに出すのか

- ・クリーンステーション調べ
- 空地や町のかど
- 広い道に面している
- ↓
- ごみが出しやすい
- パッカー車がいりやすい

なぜ、家の近くに少ないのか

- ・「におい」の問題
- 近いのは便利だが、自分の家の前はいやだ。

どこでどう処理されるのか

- ・クリーンセンター見学
- 24時間焼却
- 機械化・合理化
- 公害をださない工夫

だれが集めるのか

- ・パッカー車の人
- 雨の日も風の日も
- けがの不安
- 1分でもはやく
- 厳しい仕事

仕事への誇り・喜び

この学習では、子供たちの家庭から出るごみの量や質を調べさせ、「そのごみが、一体どのように処理されるのか」を子供たちの学習課題に設定する。その課題に迫るために、「クリーンステーション（ごみの収集場所）はどこにあるのか」「集められたごみは、どこで処理されるのか」「集める人はどんな苦勞があるのか」などを細かく課題設定し、学習計画を立てる。

2. 指導計画例

	①	②	③	④	⑤⑥⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
	とらえる	たてる	調べる	調べる	調べる	調べる	調べる	調べる	調べる	まとめる	ひろげる
	① ごみの種類と量	② 家庭のごみ	③ クリーンステーション調べ	④ クリーンセンター一見学の視点	⑤⑥⑦ 見学とまとめ	⑧ クリーンステーション見学	⑨ 集める様子	⑩ パッカー車で働く人	⑪ パッカー車で働く人	⑫ 美しいまちにするための取組	⑬ これからのごみのしまつ
ね ら い	増えているごみの量と種類を知る。	家庭のごみについて学習課題をもつ。	クリーンステーションの様子と位置を調べ、地域と関わっていることに気付く。	膨大なごみの量と、それらを見る人々の働く姿に気付く。	集めに来る人の仕事ぶりを見る。	仕事ぶりから、重労働であることを気付く。	パッカー車で働く人	パッカー車で働く人の話から、苦労や喜びに気付く。	パッカー車で働く人の危険な様子から労働の厳しさを理解する。	ごみの処理事業を通して、自分たちにできることを考える。	増加するごみの量について、3Rを含め、新しい工夫を考える。
学 習 活 動	1. 家庭から出るごみについて話し合う。 2. 神戸市の一日のごみの量について調べると。 3. ごみの量が増えてきた訳を考える。 4. 昔のごみの処理方法を知る。	1. 家庭のごみについて発表する。 2. 家庭から出るごみについて話し合う。 3. 今後の課題をもつ。 4. クリーンステーションについて話し合う。	1. クリーンステーションの様子について話し合う。 2. クリーンステーションの位置を発表する。 3. 位置について気付いたことを出し合う。 4. その位置に設置された理由を考える。	1. ごみの処理方法を調べる。 2. 見学の視点を考える。 3. グループで出された課題についてまとめる。	1. クリーンセンターに集められたごみの量を調べる。 2. 処理の方法を確かめる。 3. 処理の工夫を確かめる。 4. 様々な工夫がなされている訳を考える。 5. クリーンステーションの機能と工夫をまとめる。	1. 集めに来る人の様子を出し合う。 2. 集めに来る人の様子を見学する。 3. 見学して気付いたことをまとめる。 4. 感想と疑問を出し合う。	1. 集められたごみの様子を話し合う。 2. パッカー車の人の働きぶりを確かめる。 3. 素早い仕事ぶりについて話し合う。 4. 急ぐ理由を確かめる	1. 1日の仕事について話し合う。 2. 1日の工程表を調べる。 3. パッカー車で働く人の苦労を考える。 4. パッカー車で働く人の喜びについて話し合う。	1. 1日の仕事について話し合う。 2. 1日の工程表を調べる。 3. パッカー車で働く人の苦労を考える。 4. パッカー車で働く人の喜びについて話し合う。	1. クリーンセンターやパッカー車で働く人の苦労について話し合う。 2. ごみの増加が続くとどんな事態になるか考える。 3. 家庭でのごみ処理の工夫について話し合う。 4. ごみの削減について自分ができることを考える。	1. 不燃ごみの実態を調べる。 2. ごみの量が増える原因を調べる。 3. 自分たちでできることを話し合う。 4. 将来のごみの処理について考える。 5. 学習を終えた感想をもつ。

本時の学習の流れ参照

3 学習の流れ（例：一部抜粋）

学習の流れ	教師の働きかけ	予想される児童の反応	資料
<b>とらえる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は、パッカー車で働く人の苦労を考えていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を思い出し、本時の課題を確かめる。</li> </ul>	
資料提示 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事「ごみが変身…凶器に」を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがが多いんだ</li> </ul>	新聞記事「ごみ が変身…凶器 に」
発問 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなけがや事故がありますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を切っている。</li> <li>・病院で手を縫うけがだ。</li> <li>・親指を骨折した人もいる</li> </ul>	
補 説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ袋の中に、ガラスや刃物が捨てられていること、ボンベ等危険物がそのまま捨てられていることを説明する。</li> </ul>		
<b>たてる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがや事故もつらいことだが、もっとつらいことがないか考えてみましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがよりももっとつらいことは何だろう。</li> </ul>	
発問 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがよりもつらいことは何だろう。</li> </ul>		「ごみ収集する 人の願い」
資料提示 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ごみ収集する人の願い」を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「くやしい」「腹立たしい」思いをしたことが分かる</li> </ul>	
<b>しらべる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして「腹立たしく」「くやしい」思いをしたのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	
<b>まとめる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習で思ったことを出し合ひましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活には欠かせない仕事だ。</li> <li>・仕事に誇りをもっている</li> </ul>	
<b>ひろげる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見や考えをまとめましょう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事への偏見について自分の考えをまとめる</li> </ul>	

#### 4 学習を終えて

子供たちが主体的に学ぶためには、教室・学校内から飛び出し、現地での調査活動・見学（観察）活動を仕組むことが重要である。

本学習では、校区内のクリーンステーションをグループで調査することから主体的な学習を組み立てていった。公園・駐車場・空地の前等にクリーンステーションが多いことを発見し、どうして家の近くになのかという疑問を出す子供も多い。小グループで観察活動を進めることにより、自然とグループ内で対話が生まれてくる。「なぜ」「どうして」という問いと、自分なりの「解」が飛び交う中で、主体的な学びは、自分たちの生活の中にある社会問題へと深い学びになっていく。実際に自分たちの生活の中に潜む問題を自分自身の問題として捉えるためには、事実を見ること、子供たちの五感全てで感じさせる学習活動が必要である。

また、「人」に出会わせることも重要である。働く人の服装・表情・動作等仕事ぶりを細かく観察できる「見学の視点」を育てていくことが重要である。子供たちが普段何気なく見ている「パッカー車で働く人」に服装・表情・動作等の見学の視点を与えることで、子供たちの見学が焦点化され、働く人の工夫や苦勞を重ね合わせて観る子供に育つことが期待できる。「人」を観る視点については、低学年生活科等の関連で6年間を見通して育てていくことの大切さを感じる。1年生入学当初の「がっこうたんけん」等のスタートプログラムから、自分たちを支えてくれる学校の先生・調理士・管理員さんの役割分担・服装の違い等に気付くような仕掛け（視点）が重要になってくる。3年生から始まる社会科の先行学習・先行認識は低学年から培われている。

最後に学習を支える資料の重要性を考えていきたい。社会科で子供たちが自ら課題を見つけ、自分たちの力で問題を解決していくためには、子供たちの思考に沿った、タイムリーな資料が必要である。

- ・学級内の子供一人一人が理解できる分かり易い資料であること。
- ・事実を正しくとらえるために、中立性が保たれた資料であること。
- ・統計資料等、直近のデータであること。
- ・子供たちの生活に身近な資料であること。

このような資料が望まれる。資料を提示した、その時から、指導者の指示・発問等がなくても、資料を見た途端に子供たちが活動を自発的に始める資料を準備したいものである。

#### IV. まとめとして

次期学習指導要領では、「育成すべき資質・能力」の一つとして、情報活用能力の重要性を述べている。社会科における情報活用能力の育成として、



- ・観察や調査を通じて情報を集め、読み取り、まとめていくために必要な力を育成すること。
- ・取り出した情報を基に、考察・構想・説明・議論するために必要な力を育成すること。
- ・社会における情報化の意味や影響について理解すること。
- ・様々な情報が人々の意思決定に影響を与えていることについて理解すること。

が、挙げられている。

観察・調査活動の重要性を示し、情報を分析・処理していく能力を求めている。現場の社会科学習でなされているであろう、調査活動・見学活動、或は資料提示（情報）の在り方を「育成すべき資質・能力」の視点で見直す必要性を強く感じる。

次期学習指導要領は、東京オリンピックの10年後、2030年をターゲットイヤーにしていると言われている。2030年とは、今の小学校中学年の子供たちが成人し、社会に出る時代でもある。情報化やグローバル化などの社会的変化が想像以上のスピード感をもって進んでいる。加えて、人工知能の急速な進化が職業にも大きな影響を与えるという予測もある。

予測不可能な時代にあっても、予測できない変化に主体的に向き合うしなやかさ、困難な状況を仲間と智慧を出し合う中で、新たな解を見出し実行していくような逞しさなど、未来の創り手となる基礎を子供たちの中に育てていきたいと考える。

本稿では、社会科の実践例を通して、「主体的・対話的で深い学び」が期待できる事例について考察を加えてきた。感性豊かに自分の周りにある社会的事象を見ることができ、仲間と共に社会生活に潜む課題を見抜き、自らの力で解決していく子供たちの育成に、どのようなアプローチが相応しいのか、今後も研究を進めていきたいと考える。

## 参考文献

- 1) 『小学校学習指導要領解説 総則編』 文部科学省、2017年（平成29年）6月
- 2) 『小学校学習指導要領解説 社会科編』 文部科学省、2017年（平成29年）6月
- 3) 『「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて～新学習指導要領全面実施への参考～』 全校連合小学校長会、2017年（平成29年）7月

## Abstract

The goal of social studies in the next course of study for elementary school is provided as follows; “to raise basic abilities of citizen which is necessary for peaceful, democratic national and social formant who lives actively in global society, through utilizing a social viewpoint and approach, investigating and solving problem”.

On the other hand, the goal of social studies in the current course of study for elementary school is provided as follows; “to promote understanding social life, foster comprehension and affection for our land and history, and raise the basic capacity of citizen who lives actively in the international society as peaceful, democratic national and social formant”.